

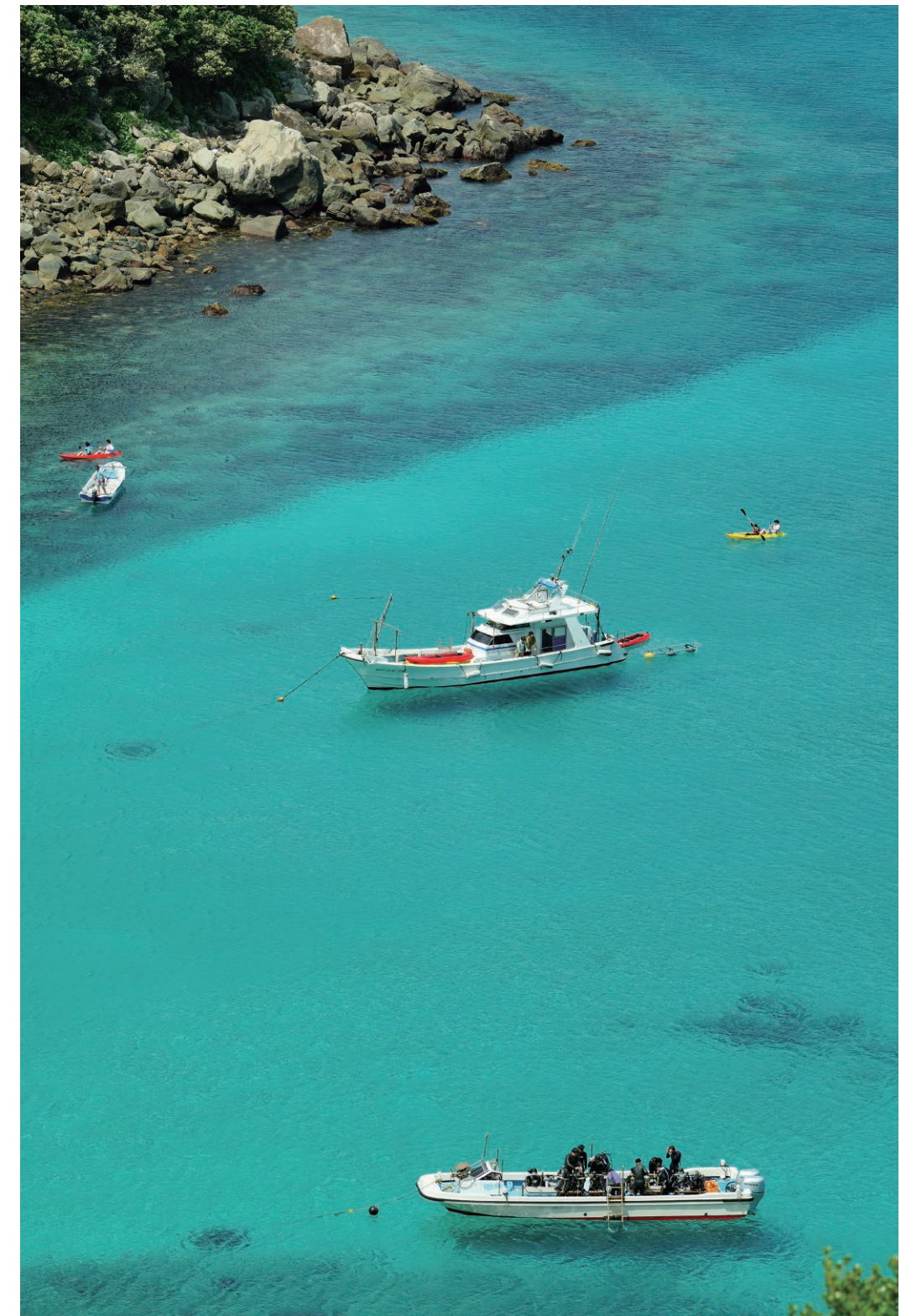
仁泉会ニュース 第57巻第3号
発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7
電話 072-682-6166 FAX 072-682-6636
発行者 上野 豊 発行部数 6,300 部
URL <http://www.jinsenkai.net>

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

透明な 蒼に浮かんで リフレッシュ

● 受章報告・受賞報告 P3
● 推挙報告 P5
● 令和8年度 大阪医科薬科大学入学宣誓式 P6
● 学会報告 P9

● 支部だより P10
● 仁泉ひろば P17
● 本部だより P33



— 100%手づくりのお世話® —

本気の婚活 最良の未来を。



「人がつなぐご縁」と「自ら広げるご縁」を
適切に組み合わせ、最良の結果に導きます。



専任カウンセラー
による丁寧な
サポート



高い成婚実績と
ご紹介力



親御様からの
ご相談も
歓迎です



手づくりのお世話を大切に
お一人おひとりのお人柄やご家庭背景まで
理解した上で、最適なお相手探しから
ご成婚まで丁寧にサポートします。



多様な婚活に柔軟に対応
基本のお世話を軸に、信頼できる
ネット婚活のご紹介も可能。
多様な出会いの機会を提供します。

🌸 そろそろ結婚とお考えの親御様の為の無料セミナー 🌸

なんば 8月2日(日) 13:30~
なんばスカイオコンベンションホール
8階 会議室1

京都 8月16日(日) 13:30~
京都商工会議所 7階 D
(京都経済センター内)

大阪 8月23日(日) 13:30~
大阪梅田ツインタワーズ・ノース
26階 3号室

※セミナーは完全予約制です。定員になり次第締め切らせていただきます。

Marriage Road®結婚



成婚率の高さ



質の高い会員層



自社会員のみの構成

株式会社エムロード

☎ 0120-4122-46

10:00~18:00
水曜定休

資料請求
無料

●スタンダードコース
●ドクターズコース



〒530-0043 大阪市北区天満3-2-2 エムロードビル3F

大阪

神戸

京都

東京

<https://www.m-road.co.jp/>

目次

受章報告・受賞報告

P3	藍綬褒章 瑞宝中綬章 旭日双光章	笠原 幹司先生 (学35期) 西元 善幸先生 (学30期) 鈴木 克司先生 (学31期) 井尻 慎一郎先生 (学31期)
P4	日本臨床整形外科学会 学術賞	

推挙報告

P5	日本臨床整形外科学会名誉会員	澤田 出先生 (学30期) 鈴木 潔先生 (学30期)
----	----------------	--------------------------------

令和8年度 大阪医科薬科大学入学宣誓式

P6	学長式辞	大阪医科薬科大学学長 佐野浩一
----	------	--------------------

学会報告

P9	第17回 日本蘇生科学シンポジウム開催報告	新田雅彦 (学41期)
----	-----------------------	-------------

支部だより

P10	令和8年度 仁泉会大阪府支部連合会支部長会 および学術講演会報告	
P12	令和8年 岡山県支部総会開催報告	小出尚志 (学28期)
P13	令和7年度 仁泉会香川県支部総会報告	大谷昌裕 (学40期)
P15	令和8年 仁泉会高知県支部 総会及び新年会報告	市原直子 (学24期)

仁泉ひろば

P17	用語 レントゲン画像 について	上杉康夫 (学34期)
P18	浪速区医師会クラウドファンディング物語	久保田泰弘 (学36期)
P20	大阪医科薬科大学空手道部OB/OG会 第1回拳正会 総会、懇親会のご報告	木村光誠 (学49期)
P22	スキー部OB 塗 隆志先生(学52期) 母校形成外科学教室教授就任記念祝賀会を開催	武部 健 (学52期)
P24	令和7年度 大阪医科薬科大学医学部バスケットボール部 OB・OG会 総会開催の報告	宮崎信一郎 (学52期)
P26	バスケットボール部 部長 佐浦隆一 教授 退職記念パーティー 令和7年度 大阪医科薬科大学医学部 柔道部追い出しコンパ開催報告	本田浩太郎 (学59期)
P28	会員著書	梶川 博先生 (特別会員)
P29	会員著書	井尻慎一郎先生 (学31期)
P30	会員著書	永井 章先生 (学38期)
P31	まんが第79回	機動戦士ボン太ム (学31期)
P32	開業しました！	外村大輔先生 (学55期) 吉田修平先生 (学55期) 江崎雄也先生 (学59期)

本部だより

P33	理事会開催報告
P34	会員計報
P36	支部長交代のお知らせ
P37	編集後記

表紙写真：コバルトブルーの海

高知県最西端、柏島のエメラルドグリーンの海です。その透明度は船が浮いて見えるイタリアのランペドゥーザ島のように。高知市からもかなり遠いですが、必見です。帰りはもちろん四万十川の鰻を食べました。

ひろし

受章報告

令和 7 年秋の叙勲・褒章において、笠原幹司先生が藍綬褒章を受章されました。

ここにご報告をさせていただきます。

藍綬褒章

笠原 幹司先生（学 35 期）

学部35期 昭和61年卒業の笠原幹司と申します。	保険審査・介護認定審査・休日診療所出務等に20年以上携わるなど、長きにわたり皆様に支えられながら、
令和7年秋の叙勲・褒章において藍綬褒章を受章いたしました。	地域のため・府民のために一生懸命尽くしてまいりました。受章後には皇居・宮殿に参内し天皇陛下に拝謁
地域医療への長年の取り組みが評価され大阪府より推薦を頂いたものと拝察しております。平成8年地域医療を守るため不安を抱えながらも開業いたしまし、平成10年には地区医師会役員、26年には大阪府医師会役員に就任して現在に至っております。また、学校医・	するという大変ありがたい機会を賜りました。陛下からお祝いのお言葉を頂戴し、今後さらに精進するべく決意した次第であります。
	学 35 期 笠原幹司

受章報告

令和 8 年春の叙勲において、下記の先生方が受章の栄に浴されました。

慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

瑞宝中綬章

西元 善幸先生（学 30 期）

旭日双光章

鈴木 克司先生（学 31 期）

このたび令和8年の春の叙勲におきまして、はからずも旭日双光章を受章いたしました。	会長2期を歴任しました。18年間兵庫県医師会役員を務め令和6年6月で退任し令和8年4月に満70歳をむかえたところで受章いたしました。これまで診療活動・医師会活動に関連して同窓にも大変お世話になってまいりました。この場を借りて厚く御礼申し上げるとともに今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。
昭和57年3月に大阪医科大学（現、大阪医科薬科大学）を卒業、昭和62年11月から兵庫県尼崎市にて耳鼻咽喉科診療所を開設しております。平成8年4月から尼崎市医師会理事に就任し同副会長を経て、平成18年4月から兵庫県医師会理事2期、常任理事5期、副	学 31 期 鈴木克司

受賞報告

令和8年度 日本臨床整形外科学会において、井尻慎一郎先生が学術賞を受賞されましたので、ご報告申し上げます。

この度令和8年度日本臨床整形外科学会（整形外科開業医の会、5300人）の学術賞を受賞いたしました。日本臨床整形外科学会には学術賞、学会功労賞、学術奨励賞（60歳以下）の3種類の表彰がありますが、学術賞は34年間で私の受賞が17人目です。

これまでの学術賞受賞者の中には、高名な整形外科医が何人もおられます。大変名誉なことと思っています。これも皆さまのご厚情とご指導の賜物と心より感謝いたします。

まだまだ未熟者ですが、これからもご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

井尻慎一郎（学31期）

賞状
学術賞
井尻慎一郎殿

あなたは多年にわたり関節疾患・骨代謝並びに運動器保存療法の分野について多くの論文を上梓し一般社団法人日本臨床整形外科学会の学術事業の発展に大きく貢献した功績は誠に顕著なものとあります
よってここにその功績を讃えて一般社団法人日本臨床整形外科学会学術賞を贈ります

令和8年5月31日
一般社団法人日本臨床整形外科学会
理事長 長谷川利雄

一般社団法人日本臨床整形外科学会 学術賞受賞者		
年 度	氏名	都道府県名
平成 5年度	石 塚 忠 雄	東 京
	月 出 勉	静 岡
平成 7年度	高 山 瑩	東 京
平成 8年度	信 原 克 哉	兵 庫
平成13年度	中 野 昇	北 海 道
平成14年度	吉 良 貞 伸	兵 庫
平成16年度	五味淵 諒 一	栃 木
平成20年度	川 島 眞 人	大 分
平成21年度	石 黒 隆	神 奈 川
平成22年度	角 南 義 文	岡 山
平成23年度	麻 生 邦 一	大 分
平成27年度	吉 村 光 生	福 井
平成30年度	貞 廣 哲 郎	高 知
令和元年度	原 正 文	福 岡
令和 2年度	八 木 知 徳	北 海 道
令和 7年度	吉 井 一 郎	高 知
令和 8年度	井 尻 慎 一 郎	兵 庫

学30期 澤田 出先生・鈴木 潔先生が
日本臨床整形外科学会名誉会員に推挙

令和8年5月31日、学30期の澤田 出先生ならびに鈴木 潔先生が、日本臨床整形外科学会名誉会員に推挙され、同学会理事長の長谷川利雄先生(学32期)より認証状を授与されました。お二人の先生からの推挙によせたお言葉を頂きました。

澤田 出先生

この度、日本臨床整形外科学会名誉会員に推挙されました。

平成16年より4年間、同学会の理事を担当し、また平成19年より4年間、日本整形外科学会広報・渉外委員会委員として、ロコモティブシンドロームの国民への認知、啓発活動に携わったことなどが評価されたものです。

令和8年5月31日、理事長 長谷川利雄先生（学32期）より認証状の授与を受けました。



鈴木 潔先生

学30期の鈴木 潔です。

昨年は同級生の中島幹雄先生と日本整形外科学会功労賞をいただき、今年は澤田 出先生と日本臨床整形外科学会から名誉会員に推挙されました。

愛知県整形外科医会会長として、コロナ禍、日本臨床整形外科学会学術集会を初めてのWEB学会として運営できたことが評価されたと思います。

歳をとるのはつらいですが、いいこともありますね。



受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。
FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集部

仁泉会事務局 TEL／072-682-6166 FAX／072-682-6636
e-mail／jimu@jinsenkai.net



祝・入学

令和8年度 大阪医科薬科大学入学宣誓式

令和8年4月4日（土）高槻城公園芸術文化劇場トリシマホールにて挙行され、医学部
学81期生112名がご入学されました。当日の佐野学長の式辞を掲載させていただきます。

学長式辞

大阪医科薬科大学学長 佐野浩一

花細し今日

大阪医科薬科大学
医学部112名、薬学部
314名、看護学部92
名、医学研究科45名、
薬学研究科5名、看護
学研究科13名、新入
生の皆さんご入学おめ
でとうございます。



保護者の皆様には今日まで見守ってこられた御子息
御息女の御入学に際し、さぞお喜びのことと拝察いたし
ます。御同慶の至りでございます。

また、御来賓の皆様には年度始めのご多忙中にもか
かわらず、御臨席賜りましたことに本学を代表して御礼
申し上げます。

さて、本年度は大阪医科大学と大阪薬科大学が統
合され「至誠仁術」を学是とする大阪医科薬科大学と
なつて6年目の完成年度となりました。「国際的視野に立っ
た良質の教育、研究および医療の実践を通して至誠仁
術を体現する医療人を育成する」という建学の精神の
下、この記念すべき年に、皆さんを迎えることを大変うれ
しく、また光栄に思います。旧大阪薬科大学と旧大阪

医科大学はともに1世紀に及ぶ歴史と伝統のある大学で
す。それぞれの前身である帝国女子薬学専門学校の創
立者 吉津度はともに同時期に大阪共立薬学校を修了
しているとする説があり、その二人が心を込めた大阪薬
科大学と大阪医科大学が統合されたことに深い縁を感じ
ます。地下鉄淀屋橋駅近く（道修町）の塩野義製薬
大阪本店ビル前には大阪薬科大学の発祥記念碑があり
ます。また、地下鉄中崎町駅近く（万歳町）には大阪
医科大学の元となった大阪細菌研究所梅田病院の跡地
に大阪細菌研究所の略称を名に残すダイサイビルがあり
ます。一度訪れて皆さんが入学した本学の先人たちの
心に思いを馳せて下さい。

また、本部キャンパスに学問的に重要な意味をもつ3
本の本が植えられています。1本はヒポクラテスの樹で
す。医聖と呼ばれるヒポクラテスはギリシャのコス島に生
まれ、プラタナスの木陰で医学を論じたと言われていま
す。そのコス島のプラタナスの種が日本の学者たちによつ
て持ち帰られ日本各地で芽を吹き、育てられています。
本学のヒポクラテスの木はそのうちの東京大学で芽吹い
たプラタナスの種をもらい受けて育てたものです。もう1
本はコッホの樹です。結核菌の発見者ロベルト・コッホ
が北里柴三郎博士の招待を受け来日したときに持参し、
コッホ自身が北里研究所に植えた樹でその樹の一枝を
育苗したものです。

3本目は楷樹です。楷樹は論語に名を残す孔子の墓
所「孔林」（中国山東省曲阜市）に弟子の子貢が植
樹したとされており、「学問の聖木」と呼ばれています。



その楷樹の種を育苗したのが東京お茶の水の湯島聖堂
の楷樹の巨木です。本学にある学問の聖木は湯島聖
堂に茂る楷樹の種から生まれたもので、それぞれに先師
先哲の心を伝えるものです。

サイバー空間で過ごすことが多い昨今です。これら現
実空間にある記念物や木々に触れることによって大阪医
科薬科大学の先人の心に思いをはせ、皆さんの本日の
心構えを保っていただきたいと思います。

さて、世界各地の現実空間だけでなくサイバー空間
で戦乱が起こっており、社会情勢の把握が難しい状態
です。加えて、生成AIの加速度的な進化と普及によつ
て米国などでは理系人材の就職難が起こるなど社会が
大きく変化しつつあります。物理学者で哲学者でもある
ブレーズ・パスカルは機械式計算機を発明し、筋道を
立ててものごとの考える人間の思考力のひとつである算
術の計算は機械にもできることを示しました。おそらく、
彼は人間の思考とは何かを考えたことと思います。彼のメ
モ集であるパンセの「人間は考える葦である」という表現
の本質は「La misère et la grandeur de l'homme」「人
間の悲しさと偉大さ」ということのようにです。機械式計算
機を発明した彼が生成AIの出現を予想していたか否か
は分かりませんが、AIを念頭に彼の言葉を解釈すると「サ
イバー空間で大規模言語モデルで莫大な記憶情報を基
に筋道を立てて考えるAIに対して、人間は現実空間で
の経験を言語化し、筋道を立ててものごとを考え、サイ
バー空間に情報を提供することができる偉大な存在だ
が、人間の記憶は限られている上に忘却という機能を有

しており、しかも、生命には限りがあり世代交代をしなけ
ればならない1本の葦のように弱い存在だ」というほどの
意味になるかと思います。

神経細胞に相当する人工ニューロンでニューラルネット
ワークを構築し、人間の脳機能を模したトランスフォーマー
と呼ばれるAIモデルが完成し生成AIが急速に進化しま
した。生成AIは、サイバー空間でものごとを考えています。
私たちが現実空間における出来事や物事を言語化・
データ化して入力して構築されたサイバー空間は、現実
空間を鏡に写したようなものです。しかし、その鏡は十
分に研磨されたものではなく歪みが多いため、サイバー
空間は現実空間を正確に写しておらず、生成AIがサイ
バー空間で生み出すものには現実空間に存在しないハ
ルシネーションが多く含まれます。そのハルシネーションを
見極める力を養うことが極めて重要です。そのために私
たちは、現実空間で絶えず更新される基礎知識と実験
や実習による経験を積み重ね、そして、サイバー空間を
豊かなものにするため経験を言語化・データ化してレポー
トや論文を作成する能力を磨くことが大切です。その能
力をもつことが、皆さんがパスカルのいう偉大な人間であ
ることの証になります。

そして、パスカルが「La misère」と評した私たちの
生命は限られているが由に貴いもので、今日からはその
貴い生命と生活にかかわる医学・薬学・看護学を学ぶ
ことに誇りをもち実験や実習を含め勉学に励んでください。

折しも、皆さんの現実空間における実習の場となる本

部キャンパスの病院新本館、研究の場となる死因究明施設・病態モデル研究施設が昨年完成しました。更に、本学は、第4のがん治療法といわれる最先端のがん治療ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）を実践的に医療として提供する世界で唯一の大学です。本学には皆さんが現実空間で様々な経験を積むために必要な他学のない環境が整っています。加えて、本学にはその環境にもまして私の一番の自慢である教員や職員がいます。皆さんが教員や職員と現実空間での学びを深めるだけでなく、困ったり悩んだりすることがあれば、遠慮なく相談して下さい。そして、これからの学生生活を楽しく有意義なものにして下さるようお願いします。

結びとして、大阪医科薬科大学が自信をもって選抜した新入生の皆さんが、選ばれし者として、それぞれの個性を大切にしつつ、他者を思い遣り受け入れる心即ち恕をもって専門的な知識と技能だけでなく、教養と現実空間での経験を重ねて、至誠仁術を体現する医療人となることを心から願い、式辞とします。

令和八年四月四日
大阪医科薬科大学
学長 佐野浩一



学会報告

第17回 日本蘇生科学シンポジウム 開催報告

文責／大阪医科薬科大学病院 医療安全推進室
新田雅彦（学41期）

2025年7月5日（土）、東京都・虎ノ門ヒルズフォーラムにおいて、「第17回 日本蘇生科学シンポジウム（17th J-ReSS）」を開催いたしました¹⁾。開催にあたり、仁泉会の皆さまから温かいご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

J-ReSSは、日本蘇生協議会（JRC）が主催する、蘇生科学をテーマとした学術集会です。医師のみならず、看護師、救急隊員、その他蘇生に関わる多職種が参加し、蘇生科学の進歩と発展を図ることを目的として毎年開催されています。今回は、「第38回 日本小児救急医学会学術集会」（会長：聖マリアンナ医科大学 小児科学講座 清水直樹主任教授）に併設され、さらに「第32回 小児集中治療ワークショップ」（大会長：兵庫県立こども病院 小児集中治療センター 黒澤寛史センター長）との合同開催となりました。小児関連領域の学術集会にJ-ReSSが併設されるのは約10年ぶりであり、3つの学術集会が同時開催される意義深い場となりました。

また、2025年は、国際蘇生連絡委員会（ILCOR）が公表するCoSTR（Consensus on Science with Treatment Recommendations）に基づき、各国・地域の蘇生ガイドラインが改訂される節目の年にあたります。その意味でも、今回のJ-ReSSは学術的に重要な時期の開催となりました。参加者数は、J-ReSS単独で46名、併設学会全体で1,121名となり、多くの医療従事者にご参加いただきました。

今回のテーマは、「“救命の連鎖”を科学する～予防から回復まで～」としました。会長講演では、私から日本における“救命の連鎖”策定の歴史的経緯と今後の展望についてお話ししました。教育講演では、ソウル大学新生児科の金漢錫教授に、韓国における新生児蘇生法の国内標準確立への取り組みをご紹介いただきました。

また、JRC蘇生ガイドライン2025改訂に向けたシンポジウムでは、BLS（一次救命処置）、ALS（成人の二次救命処置）、PLS（小児の蘇生）、NCPR（新生児の蘇生）など9領域について、最新のエビデンスを踏まえた今後の展

望が示されました。

海外招聘講演では、フィラデルフィア小児病院 麻酔集中治療科のVinay Nadkarni教授をお招きし、小児心停止の予後改善をテーマにご講演いただきました。ガイドラインに基づく治療の標準化、個々の生理学的特性に応じた治療、“low-dose, high-frequency”教育による蘇生スキル維持の有効性など、今後の蘇生医療に多くの示唆をいただきました。

さらに、パネルディスカッションでは、院内心停止登録システムの構築や、小児蘇生における成人との相違点と共通点について議論しました。小児蘇生は経験する機会が限られる一方で、年齢や病態に応じた専門的対応が求められる重要な領域です。今回の学術集会は、小児のみならず成人領域も含め、「救命の連鎖」について多角的に考える貴重な機会となりました。

改めまして、仁泉会の皆さまから多大なるご支援をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。今後は、小児科や救急科の立場のみならず、医療安全の視点からも、蘇生科学の発展と救急医療の充実に少しでも貢献できるよう努めてまいります。

参考

1) https://www.jrc-cpr.org/2025/08/18/17thj-ress_2025/



支部だより●●

令和8年度 仁泉会大阪府支部連合会 支部長会および学術講演会報告

令和8年5月9日（土）、ホテルグランヴィア大阪において、令和8年度仁泉会大阪府支部連合会支部長会および学術講演会が開催されました。当日は、支部長会に23名、学術講演会には40名の先生方にご参加いただきました。

【支部長会報告】

支部長会は、司会の大植 陸先生（学40期）の開会の挨拶に続き、霜野良一会長（学28期）よりご挨拶がございました。霜野会長からは、「支部の活動もコロナ前のように再開しつつありますが、支部長の先生方には支部の活動を活発に続けていっていただきますようお願い申し上げます。来年は母校が100周年を迎え、再来年には仁泉会も100周年を迎えますので、大阪府連として協力していきたいと考えています。」と述べられました。その後、来賓の仁泉会理事長の上野 豊先生よりご挨拶をいただきました。上野 豊先生は、仁泉会の事業活動について、もっと広報して周知をしていきたいと述べられ、100周年記念式典などを企画検討していきたいと述べられました。その後、支部長会に入り、庶務報告、



上野豊理事長(左)と 霜野良一会長(右)

事業報告がなされ、令和7年度の収支決算および令和8年度の事業計画、収支予算等について審議が行われそれぞれ承認をされました。

また、出席された各支部長の先生方からの自己紹介が行われ、それぞれの支部における活動状況などが報告され、今後の大阪府支部連合会の活動や支部間の連携について意見交換が行われました。

【学術講演会報告】

支部長会に引き続き、同会場において学術講演会が開催されました。



学術講演 塗 隆志先生
演題：「形成外科医が診る“かたち”と“うごき”
：臓器横断的アプローチ」
講師：塗 隆志 先生
大阪医科薬科大学 形成外科学教室 教授
(学 52 期)

学術講演会では、大阪医科薬科大学形成外科学教室教授の塗隆志先生をお招きし、創傷治療の基本から再建手術、マイクロサージャリー、リンパ外科に至るまで、形成外科が扱う幅広い診療についてご講演いただきました。

塗先生は、もともと建築学部を志望していたご自身の経歴に触れ、形成外科の英語名である「Plastic and Reconstructive Surgery」について、「Reconstructive」には失われたものをつくり直すという意味があると説明されました。また、「ないものは自分でつくる」という考え方が、現在の形成外科診療にもつながっていると述べられました。講演では、小耳症に対して患者自身の肋軟骨を削って耳の形をつくる手術や、眼球を失った患者に対して肋軟骨を用い、義眼の動きを得る手術などが紹介されました。

続いて、日常診療でも活用できる創傷治療の基本として、「TIME」の考え方が解説されました。壊死組織を除去し、洗浄などによって感染を抑え、良好な肉芽が形成された後に創部を保湿し、創縁から皮膚が伸びる

環境を整えるというものです。創部の状態を見極めずに密閉や保湿を行うと、かえって感染を引き起こすことがあるため、傷の状態に応じて処置を選ぶことが重要であると述べられました。また、創部にスポンジを当てて吸引し、治癒を促す陰圧閉鎖療法についても紹介されました。

自然に閉鎖しない傷に対しては、縫合、皮膚移植、局所皮弁などが行われますが、骨が露出している場合や放射線治療を受けた組織などでは、血流のある組織を移植する必要があります。そこで用いられるのが、顕微鏡を見ながら細い血管をつなぐマイクロサージャリーです。

講演では、舌を切除した患者に腹部の筋肉や脂肪を移植する手術、下顎骨の切除後に血管付きの腓骨を移植する手術、上眼瞼を失った患者に腱を含む組織を移植し、額の筋肉を使って目を開けられるようにする手術などが紹介されました。また、顔面神経麻痺に対して、背部の広背筋を血管と神経を付けた状態で顔面へ移植し、表情の動きを再建する症例も示されました。これらの症例を通じて、形成外科が身体の「かたち」だけでなく、「うごき」も再建する診療科であることが紹介されました。さらに、顔面の動静脈奇形に対する手術を例に、難度の高い手術に臨む際の準備についてもお話しされました。手術前に手順や出血しやすい部位を確認し、形成外科医、看護師、麻酔科医の間で共有することで、チームで対応しながら手術を進めていると説明されました。また、必要な情報を事前に明確に示して共有することが、患者と医師の安全を守ることにもつながると述べられました。

講演の後半では、マイクロサージャリーから派生したリンパ外科について解説されました。リンパ管は皮下脂肪の中を走行し、組織にたまった水分を取り込み、最終的に静脈へ戻す働きをしています。日本では、婦人科がんや乳がんの手術に伴うリンパ節郭清後にリンパ浮腫を発

症する患者が多く、リンパの流れが遮られることで腕や脚にむくみが生じます。

リンパ浮腫は、進行すると皮下脂肪の線維化が起こり、押してもへこみにくい状態になります。塗先生は、脂肪組織の線維化について、肥満細胞などに着目して行っている研究を紹介されました。治療の基本は弾性ストッキングや弾性包帯による圧迫であり、診断にはリンパシンチグラフィやICGリンパ管造影が用いられます。

外科的治療としては、直径約0.5ミリのリンパ管と静脈を顕微鏡下でつなぐリンパ管静脈吻合術が紹介されました。塗先生はこれを、高速道路の通行止めに対して新たなインターチェンジをつくることに例え、流れにくくなったリンパ液を静脈へ流す手術であると説明されました。

今回のご講演では、傷を治す基本的な考え方から、皮膚、筋肉、骨、血管、神経を扱う再建手術、さらには微細なリンパ管を対象とするリンパ外科まで、形成外科が担う多様な診療が紹介されました。身体の「かたち」と「うごき」をつくり直す形成外科の幅広さを知る、大変有意義なご講演となりました。

今後の予定

● 秋の文化講演会

日 時：令和8年11月7日（土）
午後3時（予定）
場 所：ホテルグランヴィア大阪

● 第5回産業医講習会

日 時：令和9年2月13日（土）
午後3時から午後5時（予定）
場 所：大阪府医師協同組合 8階 大ホール



支部だより●●

大阪医科薬科大学仁泉会 令和8年 岡山県支部総会開催報告

文責／支部長 小出尚志（学28期）

令和8年3月8日（日）、ANAクラウンプラザホテル岡山において、大阪医科薬科大学仁泉会岡山県支部総会が開催されました。ご来賓として上野理事長のご臨席を賜り、支部会員15名のご参加をいただきました。

開会にあたり、ご来賓の上野豊理事長より、創立100周年に向かって発展を続ける母校の現状や同窓会の活動状況、今後の展望についてお話をいただきました。

会食形式での総会は、学部25期の杉山雅俊先生の乾杯のご発声で始まり、食事を楽しみながら和やかな雰囲気の中で出席者の自己紹介や近況報告が続きました。それぞれの専門分野や地域医療における活動状況などが共有され、会員相互の親睦と理解が一層深まる場となりました。また、Take-home messageとして用意されたR8年度診療報酬改定資料の配布を機に、昨今の診療所や病院経営を取り巻く社会環境の厳しさとともに医政に関心を持つことの重要性についても意見が交わされました。さらに今回は、昨年に川崎医科大学泌尿器科

学教室主任教授に就任されました小村和正先生（54期）をはじめ、吉武恭子先生（50期）、山本修平先生（61期）の初参加を得て支部に新たな活気が生まれているようでした。

この度の支部総会では支部長交代のご審議もいただきました。現支部長の小出（28期）より新支部長として渡辺英臣先生（31期）への引き継ぎが提案され、出席者全員の賛成をもって承認されました。さらに、渡辺新支部長のサポート役として藤井研介先生（59期）が指名され、今後の円滑な支部運営体制が整えられました。

最後に、新支部長の渡辺先生より閉会の挨拶があり、今後の支部活動への抱負とともに、会員への協力の呼びかけがなされました。その後、出席者全員で記念撮影を行い、盛会のうちに総会は閉会となりました。



理事長先生から賛助金を頂きました。ありがとうございました。



集合写真（敬称略）

前列左より：石岡達司先生（28期）、小出尚志先生（28期）、名木田章先生（28期）、上野豊先生（仁泉会理事長）、渡辺英臣先生（31期）、藤井研介先生（59期）、杉山雅俊先生（25期）

後列左より：小村和正先生（54期）、吉武恭子先生（50期）、山本修平先生（61期）、木村隆信先生（27期）、田淵雅子先生（47期）、駒越春樹先生（26期）、龍治修先生（33期）、赤松順先生（33期）、梅垣英次先生（35期）

支部だより●●

令和7年度 仁泉会香川県支部総会 報告

文責／大谷昌裕（学40期）

2025年を振り返れば、日本初の女性総理大臣が誕生し、デフレに沈んでいた国内に一筋の明るい光が差し込んだ年として記憶に刻まれました。一方で目を世界に転じれば、混迷を極めるウクライナ情勢に加え、新たに勃発したイラン戦争が影を落としています。エネルギー資源を外部に仰ぐ我が国にとって、この原油高騰は国民生活を直撃する大きな試練となりました。

そんな激動の年度末、2026年3月28日。春の息吹を感じる高松にて「香川県支部総会」を開催いたしました。本年の出席者は医学部14名、薬学部2名、計16名。

例年通りの顔ぶれが揃う中、本年度は仁泉会本部より副学長・麻酔科教授の南敏明先生（学36）を御来賓としてお迎えいたしました。会場は、瀬戸内を一望するサンポート高松シンボルタワー32階のレストラン「Annotto」。19時、美しい夜景を背景に幕を開けました。総会は、西山信介先生（学53）の名司会により円滑に進行。冒頭、南先生の略歴紹介に続き、物故者への黙祷を捧げました。2025年3月に逝去された脳神経外科元助教の苅坂邦彦先生（特別会員）は、本学退職後もここ高松の地で「おさか脳神経外科病院」を開院され、地域医療の発展に心血を注がれました。先生の多大なるご貢献を偲び、一同、深い哀悼の意を表しました。続く会計報告では、印藤直彦先生（学56）より、会員の皆様の安定したご参加により、健全な支部運営が継続できている旨が報告されました。

乾杯の音頭は、薬学部支部長の木村英明先生にお願いしました。煌びやかな高松の夜景を愛でながら、和やかな宴席がスタート。私、大谷昌裕（学40、支部長）からの本部総会報告に続き、南副学長より「大学の近況」についてご講演を賜りました。

母校の躍進には、驚きの連続でした。医学部・薬学部・看護学部が揃って高い国家試験合格率を維持し、病床稼働率97%という驚異的な経営実績を上げている現状に、多くの会員が深い感銘を受けました。一方で、香川の救急医療が抱える「救急車のたらい回し」問題に話が及ぶと、南先生から「まだそんなことをやっている



の？」と、温和な口調ながらも鋭いご指摘をいただきました。「乗車できても降車できない救急車」という課題。先生の優しい叱責は、我々が地域医療の在り方を真摯に見つめ直す、大変貴重な契機となりました。

各会員の近況報告も、大いに盛り上がりました。自院の広報にYouTubeを駆使する「令和スタイル」の先生や、定年後も必要とされ続けて休む暇がないと（嬉しい）悲鳴を上げる先生など。旧知の仲とはいえ、尽きることのない話題に時の経つのを忘れ、気づけば終宴の22時。満足げな表情で帰路に就く先生方の背中を見送りながら、役員一同、明日への活力を共有できた喜びを噛み締めました。

最後になりますが、ご多忙の中ご出席いただいた会員の皆様、そして遠路香川までお越しくださった南敏明先生に、心より厚く御礼申し上げます。地方支部にとって、本部の「生の声を聴く」機会は何よりの刺激となります。今後もこの繋がりを大切にし、間もなく迎える「開学100周年」という大きな節目に向け、母校が歩んだ歴史と、同窓生が紡いできた絆を次世代へと繋いでいく所存です。

これからも、一人でも多くの卒業生とこの志を共有できることを楽しみにしております。



総会出席者（敬称略）

来 賓：
大阪医科薬科大学副学長・麻酔科教授：南 敏明（学 36）

仁泉会会員：
合田吉徳（学 21）、石田達也（学 28）、伊達 学（学 31）、
後藤真樹（学 32）、武田智博（学 33）、塩見勝彦（学 34）、
大谷昌裕（学 40）、桑島靖子（学 43）、西山信介（学 53）、
小橋祐子（学 53）、三浦欽之（学 54）、福田修久（学 54）、
印藤直彦（学 56）、和泉賢一（学 58）、以上 14 名

薬学部会員：
喜多克幸、木村英明、以上 2 名

総計 17 名

支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL／072-682-6166 FAX／072-682-6636
e-mail／jimu@jinsenkai.net

支部だより●●

令和8年 大阪医科薬科大学仁泉会 高知県支部 総会及び新年会報告

文責／市原直子（学 24 期）

日 時：令和8年2月7日（土）

場 所：希満里

あっという間に一年が過ぎ、今年も2月7日（土）に総会及び新年会が開催されました。定刻午後6時半にはほぼ全員が集まっていたのでしょうか、筆者がギリギリで焦っているところに、幹事の川田先生（学34）から連絡。

川田先生「今、どこですか？」

私 「もう下に着いています」

川田先生「みんな集まっていますので、
急いで上がって来てください」

時間にルーズと言われた土佐人は昔のこと、汚名返上ですっかりスマートな紳士ばかりです。

それはさておき、年に一回の懐かしい顔ぶれ10名（何とか二桁です）が揃いました。総会は一昨年の暮れにお亡くなりになった濱脇先生から会長職を引き継いだ枝重先生（学26）の第一声で始まりました。新年のめで

たい挨拶もそこそこに、昨今の医療界の厳しさの話が次から次に続きます。耳にタコができるほどどこでも聞かされる話は、一介の開業医にはどうにもなりません。話題変更。まず、去年は誰一人亡くならなかったことに一同安堵。黙祷はありませんでした。

そして疋田先生（学24）が叙勲され、仁泉会ニュースにも大きく取り上げられ、疋田先生は終始照れていました。何とか明るい話題で締めくり、少数精鋭で若返った枝重

新体制のスタートです。

さあ、宴会の始まり。乾杯の音頭は最長老、と言っても昭和24年生まれの後期高齢者になったばかりの刈谷先生（学22）です。「希満里」自慢のお料理が運ばれる中、テーブルの前後左右の先生方と和気藹々に飲み食いは進んでいきます。コロナの前と後では宴会の景色はずいぶんと変わりました。20人、30人が入り乱れて酒を酌み交わす風景は、コロナと昭和の名物先生が抜けたことでずいぶんと様変わりしました。宴会は上品に進みます。

今年是一人、若い先生が久しぶりに参加されました。枝重先生のご子息、枝重光洋先生（学55）。現在、近森病院の整形外科勤務。将来は枝重整形外科を継承されるでしょうが、今は武者修行中です。竹中先生（学54）、町田先生（学56）と枝重先生Jr.と若手が揃いました。令和の三羽鳥として、これから高知県支部を大いに盛り上げる存在に育ってほしいです。

どこそこのお嬢さんが、息子さんが大阪医大にいるようだ、帰ってくることを前提に青田買い、リクルートが始まっています。何とか高知県支部を存続させようとの思いでしょう。高知県だけでなく、地方の支部はどこも同じような問題を抱えていると思います。

何はともあれ三時間はあっという間に過ぎ、恒例の写真撮影。前列の高齢者がいつまでも元気で、来年も一人として欠けることなく集うことを約束し、三本締めでお開きとなりました。



令和8年度 秋の文化講演会のご案内 文化の秋、笑いの秋 ― 笑いと学びで、秋のひとときを

仁泉会大阪府支部連合会では、令和 8 年度秋の文化講演会を開催いたします。今回は、第 1 部として、なかや整形外科せぼねクリニック院長の中矢良治先生（平成 1 8 年卒・学 5 5 期）にご講演いただきます。第 2 部では、落語家で防災士としても活動されている桂 福丸氏をお迎えし、古典落語を中心に、楽しく心に残る時間をお届けします。

会員の先生方に気軽に楽しんでいただける、秋の行事です。参加費は無料です。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

開催概要

日 時： 令和 8 年 11 月 7 日（土） 15:00～17:30

会 場： ホテルグランヴィア大阪

主 催： 仁泉会大阪府支部連合会

備 考： 詳細は決定次第、仁泉会よりご案内いたします。

仁泉会大阪府支部連合会



仁 泉 ひ ろ ば

jinsen-park

用語 レントゲン画像 について

文責／上杉康夫（学 34 期）

『レントゲン画像は、医学用語としては正しくありません。レントゲン先生が発見したX線を使った画像検査なので、英語ではレントゲンとは言いません。例えば、胸部X線画像は chest X radiograph（CXR）といいます。』とよく最近言われます。

結論としては、医学用語としてのレントゲン画像は正しいです。日本語へはドイツ語経由の医学用語として定着しました。

しかしながら、「英語ではレントゲン画像とは言いません。」はほぼ正しいというのが現状です。

米英では Roentgen もしくは Röntgen はまず通じません。本件を厳密に記載すれば「現在の英語では レントゲン画像に対応する英語医学用語は一般的に使用されず、またほとんど通じない。」というのが正確な記載と思われるます。

放射線医学の歴史をみますと英語でも19世紀から1920年代頃の論文では roentgen-ray は使用されています¹。

The British Institute of Radiology は英国レントゲン学会 The Society Röntgen² が³1928年に The British Journal of Radiology と合併したのが発祥です³。

また米国には、American Journal of Roentgenology⁴があります。ではなぜ米英では Roentgen（Röntgen）は一般的に使用されていないのかです。

第一次世界大戦と第二次世界大戦で、米英とドイツは敵対関係にあり、ドイツ語はいわゆる「敵性語」であったこと。

また、特に戦間期から第二次世界大戦の期間でドイツ領域での特定民族に対する負の世界遺産に代表される不幸な事績が認められており、ドイツ領域からの避難民は米英に多くが移入定着し、また残念ながら多くの避難民の親族や知己に犠牲者が存在した。このためドイツを忌避する傾向が過去に存在したと思われること。

上記のような理由があると思われ、米英では Roentgen（Röntgen）がまず通じない状況に至ったと思われます。

米英の方に roentgen を使うことはありません。そもそ

も通じないからです。

しかし、ドイツ人の方には

「Röntgenstrahlung は Röntgen が発見した。

Röntgen はドイツ人だ。

Röntgenstrahlun を発見したのはドイツだ。

米英は歴史をまげるな。」

と鼻息強く言われたことがあります。

上記ですので、「レントゲン画像と言う語は米英では通じない」というのが現状と思われます。

またさらに日本の医学教育での状況が影響しています。これは医師国家試験やCBT（Computer Based Testing）で「Röntgen は避けX線を使用する」とされているからです。これは、同じ事象に対して正しい用語が2つあることは初学者の学習を妨げやすいと判断され、それを防ぐために「Röntgen は避けX線を使用する」という事になっているのだと思考いたしております。

学生の講義においても、歴史的事象の説明では Roentgen を使用しましたが、それ以外は小生が大阪医科大学（在任当時）の教育主任を仰せつかっていた関係上、所属の他教員の先生方にも「講義で Roentgen は避けX線を使用する」ことを徹底するようにお願いいたしておりました。したがって、日本全国レベルで若い先生方は人名としての Roentgen 以外の用法は教育現場で目にしたことはないと思われます⁵。

レントゲン画像は上記のような背景で現在米英では通じませんし、CBT 世代より若い先生方にも通じません。レントゲン画像はドイツ経由の正しい用語ですが、一般的用語ではなくなってしまったとしても過言ではない状況と思われます。小生も臨床場面で使いませんし、また教育場面でも使いません。まず日米英で通じないからです。

令和8年5月22日

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪急性期・総合医療センター 放射線治療科 医師
（在職出向）

市立貝塚病院 顧問 放射線治療科 医師
関西福祉科学大学 保健医療学部 前教授
大阪医科大学〈現 大阪医科薬科大学〉放射線医学教室
元准教授
34期 上杉康夫

1 <https://www.radiology-history.online/history-chest1.html>

2 <https://radiology-history.online/papers/protection1-british-J.pdf>

3 https://en.wikipedia.org/wiki/The_British_Journal_of_Radiology

4 <https://www.ajronline.org/>

5 <https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/001082885.pdf#page=19>

仁泉ひろば

jinsen-park

浪速区医師会

クラウドファンディング物語

文責／久保田泰弘（学 36 期）

2025年5月14日の在宅連携協議会では、現在、浪速区医師会内で2016年より稼働してきた「Aケアカードシステム」について、様々な機能の追加・変更の提案が議論の中心になっていた。在宅医療を中心に広がってきたこのシステムは、基本的にPCで利用することが多く、またデジタルでの入力が必要なので、紙カルテ派の医療機関には利用が困難であった。したがって、主に利用している医療機関は、浪速区全体の約3分の1程度に留まっていた。

そもそも、このシステムを2016年に導入できた背景には、浪速区役所からの資金支援があった。当時の玉置区長が、何度も当時の吉村市長に交渉に行ってくださり、またシステム構築に向けての協議会に何度も参加していただいた結果、完成したシステムである。

当時、区役所から1600万円の支援があった。

そもそも、このようなシステムでは10年が経過すれば新システムに入れ替える時期に来ている。当時の協議会での積立金だけでは150万円程度であり、システムを再構築するためには、少なくとも1000万円程度は必要であるとの試算が出されていた。

その月の医師会理事会では、一部の利用者のために医師会から出資することには反対であるという意見が散見された。

その後の協議会で、愛染橋病院地域連携室の中川氏から、クラウドファンディングで資金調達してみてもどうかとの提案があった。いずれ病院でも資金調達にクラファンを活用する可能性を検討していたため、資料提供があった。readyforさんは、医療・福祉に関しても著名なクラウドファンディングの会社で、病院での救急車や3次救急の資金調達など、過去に様々な達成実績を持っていた。

それを理事会に持ち帰り提案したところ、理事全員の賛同を得られた。

そして7月16日、第1回目のクラファンミーティングで面食らうことになる。

readyforのチューターの鈴木さんは、最初に、クラファンは基本的に当事者である我々が本気になって広報しないと何も始まらない、という話から始められた。あくまでreadyforさんは、様々な提案と、サイト構築、パンフ制作、データ分析はしてくれるけれども、実際に広報活動を行うのは我々であることを、しっかり自覚してほしいと。そしてall or nothing方式で、達成額に達しなければ全額返金となり、失敗に終わると言われた。

その後、2026年1月の達成報告まで計17回、Webミーティングが開催され、2025年7月からの理事会でも6ヶ月にわたり毎回協議された。トータルで23回協議されたことになる。

第1回目のミーティングで、計画のグランドデザインが発表された。

まず、「浪速区医療DX」のコンセプトとして、浪速区の医療機関をひとつの総合医局のようなクラウドとして捉え、共通に診ている患者がいれば、チャット機能を通じて連携できるシステムである、という内容のパンフと動画を作成し、それを地区医師会員等に説明していくコンテンツとした。

まずは、今回のクラファンにあたって理事全員の協力を得るために、浪速区をエリア別に7班に分け、それぞれのグループで班長を決め、地区医師会員全員に、地区の班長が各医療機関を訪問して説明に行くことを決めた。

その際、readyforのサイトに各医療機関の特色と写真を載せ、「浪速区医療列伝」として掲載する案が出た。これは、10月29日から12月26日の終了までの間、毎週継続された。

また、地区医師会の各医療機関に、先生方の友人や、理解してくれそうな患者様への支援依頼もお願いした。

そして、大阪府下の大学病院、医師会員の医局、単科医会、同門会、同窓会など、それぞれ誰が広報するかを協議した。

また、2025年度に浪速区役所100周年に寄付があった資料をもとに武市区長に相談に行ったところ、ほとんど納税協会の理事が関わっていたことがわかり、紹介していただいた。

そして、早速、浪速区ライオンズクラブの役員会に呼んでいただき、クラファンの説明会を行わせていただいた。当会副会長の徳田先生の父上もライオンズのメンバーで、ご紹介していただいた。その後、事務方と手分け

して各企業にクラファンの趣旨のメールを送った。

また、大阪医療センターの松村院長（元大阪大学医療情報部教授）、ORCA管理機構副社長の上野智明氏、MICTコンサルティング代表の大西大輔氏にそれぞれ応援メッセージをいただき、readyforのサイトで広報した。

予定では2025年9月から開始されるはずであったが、なんと過労が重なり、当会の事務長が緊急入院となった。そこで、クラファン開始を10月末からに延期していただいた。9月からのWebミーティングでは、藤吉副会長、入野理事の協力もあり、返礼品が決まっていた。浪速区ならではの品、木津市場のお漬物、旬の品、よしとのお笑い観劇券、センタラグランドホテルの食事券等が決められた。

いよいよ10月29日からクラファンがスタートした。

そこからの readyfor の鈴木さんのコーチングがすごかった。過去の他のクラファンのデータと比べて、支援金別の達成のための予測人数や、Google アナリティクスを用いたサイト訪問者数、QRコードから実際に支援に至った人数、訪問者の推移などを教えてくれた。

そして毎回、次週に向けて何をすべきか提案があった。たとえばインフルエンザが流行っていたときは、注意喚起の広報をしたりした。そして開始後20日目で1000万円を達成した。その後もセカンドゴールを2000万円に

設定し、クラファンは継続した。富永病院、なにわ生野病院、愛染橋病院、大野記念病院など、病院からの支援も大きかった。

また、医療機器メーカーや、ある患者さんからの高額支援も大きかった。

今回のクラファンにおいて、大勢の方の協力を得られたことに変感謝している。それだけではなく、普段あまり会うことのない浪速区医師会員の医療機関に理事が訪問し、直接会員の声を聞けたことは、当会にとって大きな財産となった。

この先、厚労省の医療DXでは、標準型電子カルテの導入が予定されており、3文書6情報を全国医療情報プラットフォームにデータ転送することを義務化しようとしている。我々の浪速区医療DXを用いれば、紙カルテのままでも、情報をアップロードすることが可能になる。年配の先生方では、まだまだ紙カルテを利用している機関も多く存在する。

我々は、医療DXにおいて、ひとりも見捨てない医師会を目指している。

今回、クラファンを当会でやってみて、勉強になったことが極めて多かった。各会員が自主的に支援してくれたことで、寄付方式とはまったく違った財産を得ることができたと考えている。ご支援、ご協力していただいた皆さま方、本当にありがとうございました。



仁 泉 ひ ろ ば

jinsen-park

大阪医科薬科大学空手道部OB/OG会 第1回拳正会 総会、懇親会のご報告

文責／木村光誠（学 49 期）

令和8年3月14日（土）、大阪梅田・大東洋において拳正会第1回総会を開催いたしました。当日は水流師範、新居知也師範代をはじめ、総勢31名のご参加を賜り、盛会のうちに執り行うことができました。

本総会は記念すべき第1回目の開催であり、今後の拳正会の活動の礎となる重要な機会となりました。総会は木村光誠（学49期）の進行により開会し、池田宗一郎部長（学37期）より開会のご挨拶をいただきました。

冒頭では、故・新居正前師範の三回忌にあたり、参列者一同で黙祷を捧げるとともに、在りし日のご活躍を偲ぶ動画を視聴し、深い敬意と感謝の念を新たにいたしました。OB/OGにとっては前師範との思い出は今でもなお鮮明に衝撃的なものですが、現役生にとってはその印象が薄れてしまっているようです。このような動画、企画を共有してつなげていきたいものです。

続いて、池田部長より現役部員数や活動可能学年など現況のクラブ活動の報告が行われ、その後、黒川彰夫会長（学20期）よりご挨拶を頂戴いたしました。

議事では役員改選が行われ、長年にわたり拳正会を牽引されてきた黒川会長が勇退され、名誉会長にご就任されました。これに伴い、新会長には奥田龍三先生（学31期）が選任され、新体制のもとでさらなる発展を目指していくこととなりました。また、令和7年度の会計報告がなされるとともに、本総会において今後の拳正会運営の基盤として、会費制が導入されることが承認されました。本制度は、現役部員の活動支援をはじめとする本会の持続的発展を目的とするものです。OB/OGの皆様におかれましては、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

総会終了後には懇親会が開催され、世代を超えた交流の中で親睦が深められました。令和7年度の部活動および西医体の成績について、榎本主将（2回生）より報告があり、現役部員の活躍と今後の更なる成長を期待しました。また、水流師範より藤本君（6回生）に式段、和田君（4回生）に初段の免状が授与され、会場は祝福に包まれました。

会場となりました大東洋は、会員である洪里和良先生のお店であり、美味しい中華料理とお酒を囲みながら、終始和やかな雰囲気のもと有意義な時間を過ごすことができました。

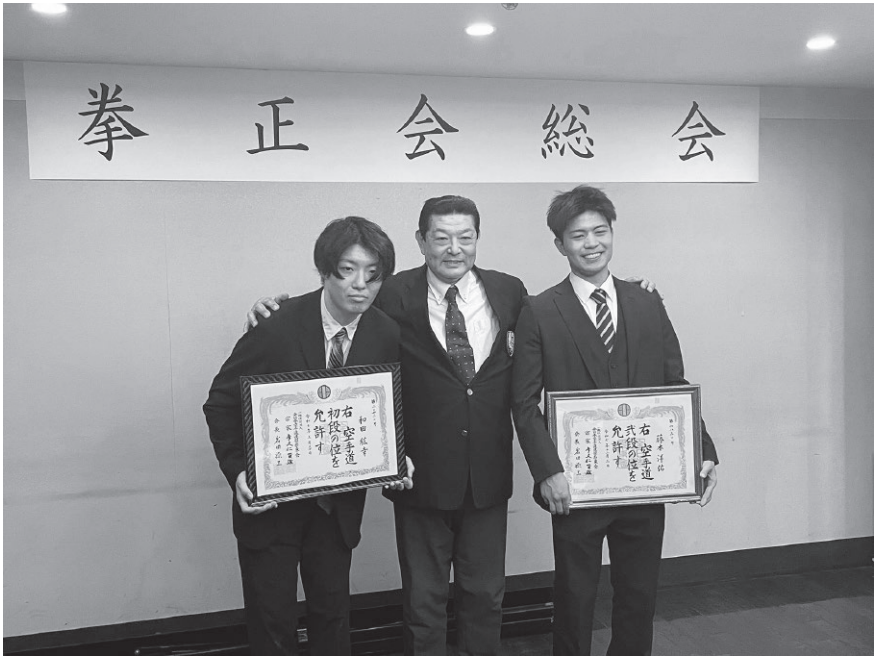
懇親会終了後には参加者全員で記念撮影を行い、再会を誓って閉会となりました。

次回総会のご案内

次回の拳正会総会は、「令和9年3月13日（土）に大東洋にて開催予定です。」

拳正会総会は今後、「毎年3月第2土曜日に定例開催」する予定としております。今回ご参加いただけなかった先生方におかれましても、次回はぜひご参集賜りますよう、心よりお願い申し上げます。また、コロナ禍の影響もありご連絡先が不明となっている会員の先生もいらっしゃいます。「最近部活の案内が届かないよ！」という方は、今後のご案内や連絡のため、メールアドレス等のご連絡先を下記までご一報いただけますと幸いです。

連絡先：木村光誠（kosei.kimura@ompu.ac.jp）



参加者（順不同）
黒川彰夫先生（学 20 期）、木下光雄先生（学 23 期）、奥田龍三先生（学 31 期）、中岡伸哉先生（学 34 期）、土井秀明先生（学 36 期）、池田宗一郎先生（学 37 期）、熊野穂積先生（学 37 期）、吉良貞政先生（学 37 期）、松田茂樹先生（学 41 期）、文元裕道先生（学 46 期）、藤本卓也先生（学 48 期）、西野鏡雄先生（学 48 期）、木村光誠（学 49 期）、田代圭太郎先生（学 50 期）、山本眞弘先生（学 50 期）、谷口 亘先生（学 51 期）、辻本直之先生（学 51 期）、松本 専先生（学 51 期）、宮崎敬士先生（学 51 期）、平山 尚先生（学 52 期）、洪里和良先生（学 53 期）、森本陽子先生（看護 H14 卒）、岩本明子先生（H17 卒）、打田裕明先生（学 55 期）、藤本洋佑君（6 回生）、和田紘幸君（4 回生）、島田剛毅君（薬 3 回生）、榎本幸大君（2 回生）、吉本一柊さん（2 回生）

仁泉ひろば

jinsen-park

スキー部OB 塗 隆志先生(学52期) 母校形成外科学教室 教授就任記念祝賀会を開催

文責／武部 健（学52期）

2025年12月14日、リーガロイヤルホテル大阪にて、スキー部OB 塗 隆志先生（学52期）の母校形成外科学教室教授就任を記念し、祝賀会を開催しました。当日は、現役学生から大先輩まで幅広い世代のOB・OGが集まり、総勢54名が参加しました。これは、塗先生の温厚で誠実なお人柄、そして長年にわたり築かれてきた厚い人望によって、多くの方が「ぜひお祝したい」と足を運ばれた結果であると思います。会場では、久しぶりの再会を喜ぶ声があちこちで上がり、スキー部ならではの温かい雰囲気が会場全体に広がりました。

司会は藤岡大也先生（学53期）が務められ、軽快な語り口と絶妙な進行で会場を盛り上げてくださいました。スキー部の思い出話や、同じ時期にスキー部で活動した者ならではのエピソードも織り交ぜながら進む祝賀会は、終始笑顔の絶えない和やかな時間となりました。

現役学生からは、塗教授へ前向きな願いが寄せられました。「スキー合宿や3月の大会に参加できるよう、

授業カリキュラムを工夫してほしい」といった声があり、部活に真剣に取り組む学生たちの熱意が伝わる場面となりました。若い世代が積極的に意見を述べる姿に、OB・OGからは温かい拍手が送られ、世代を超えた交流の広がりを感じるひとときとなりました。

さらに、複数の先生方から、教授選にまつわる話や、塗教授の学生時代のエピソード、これまで積み重ねてこられた努力に触れる温かな言葉が寄せられました。長年にわたり多くの方が、見守ってこられたからこそ生まれる言葉の数々に、参加者は深く聞き入っていました。また、後輩のOBが、学生時代に塗先生からいただいたグッズを持参しており、当時の思い出を懐かしそうに語る場面もありました。こうした姿からも、塗教授が世代を超えて慕われてきたことが自然と伝わってきました。

会の途中では、筆者が突然ご指名を受け、祝辞を述べる場面もありました。思いがけない役割に緊張しつつも、同期としての喜びと敬意を込めて言葉をお伝えしました。あの場の温かな空気的一端を担っていたなら、うれしく思います。

また、祝賀の気持ちを込めて、記念品として“スキーヤーの刺繍が施されたネクタイ”をお贈りしました。塗教授には、今後の学会や公式の場で身につけていただければ、幹事としてこれ以上うれしいことはありません。

祝賀会の準備を進める中で、多くの方と連絡を取り合いながら、スキー部のつながりの強さを改めて感じる機会にもなりました。当日は皆さまが笑顔で過ごされている



様子を拝見し、幹事として大変うれしく思いました。さらに後日、年賀状で「良い会だった」「準備をありがとう」といった温かい言葉を数多くいただき、幹事を務めて本当に良かったと感じました。

塗教授の新たな門出を、スキー部一同心よりお祝い申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



仁 泉 ひ ろ ば

jinsen-park

令和7年度 大阪医科薬科大学医学部 バスケットボール部OB・OG会 総会開催の報告 バスケットボール部 部長 佐浦隆一 教授 退職記念パーティー

文責／宮崎信一郎（学 52 期）

去る令和8年（2026年）2月28日（土）に、令和7年度大阪医科薬科大学医学部バスケットボール部OB・OG会総会が午後7時からホテルグランヴィア大阪で開催されました。今回は2013年からバスケットボール部部長ならびに本会の顧問を務めていただいた佐浦隆一 リハビリテーション学教授の退職記念を兼ねての開催となりました。OB・OG会員24名に加え、現役生3名（3年生：前田紘一・松原志穂、4年生：若林百恵）が出席し、活気ある会となりました。以下、その概要を報告いたします。

岡田茂樹会長（学24期）のご挨拶により、総会が開催されました。本総会において役員体制の変更が承認され、OB・OG会会長は岡田茂樹先生（学24期）から松井昭彦先生（学28期）へと引き継がれることとなりました。さらに、13年間バスケットボール部部長として学生を支えてこられた佐浦隆一教授の退職に伴い、後任の部長には瀧谷公隆教育センター専門教授（学38期）が就任されることとなりました。

現役生の活動報告

男子部キャプテン 杉本君、女子部キャプテン 若林さんから活動報告が行われました。戦績の高みを目指し、OB・OGの先生方の応援が励みになっていること、これからもご指導・ご支援をお願いしたいとのメッセージがありました。

佐浦隆一教授 退職記念パーティー

はじめに、松井昭彦先生（学28期）より祝辞が述べられ、長年にわたり学生とOB・OGをつなぐ存在として部を支えてこられた佐浦先生への感謝の言葉が贈られました。続いて安田稔人先生（学37期）から祝辞があり、

佐浦先生が中学・高校時代の一学年先輩であること、学生時代はもちろん医師になってからも、最近では看護学生の講義などでも大変お世話になっているというエピソードを交えながら、温かいメッセージが送られました。

乾杯の発声は瀧谷公隆先生（学38期）が務められ、佐浦先生が学生生活をさまざまな形で支援してこられた思い出を紹介されながら、和やかな宴の幕開けとなりました。

歓談の時間には、出席したOB・OGが一人ずつ近況報告を行いながら、佐浦先生との思い出や感謝の気持ち、お祝いの言葉を述べる場面もあり、会場は終始温かい雰囲気に包まれました。

その後、佐浦隆一教授ご本人よりご挨拶があり、これまでのバスケットボール部との関わりを振り返りながら、特に若手の先生方に各自のキャリアを伸ばしてほしい激励のメッセージを頂きました。長年にわたり多くの学生を見守り続けてこられた先生の言葉に、会場一同が深く耳を傾けていました。

最後は室谷益代先生（学33期）による中締めで会は締めくくられました。

懇親会

例年通り大いに盛り上がり、学生時代に戻ったかのような楽しいひとときを過ごすことができました。しかしそのまま終わるはずもなく、有志が集まり北新地へと二次会へ移動。会話も尽きることなく、深夜まで語り合い、親睦をさらに深める時間となりました。

今回の開催は令和9年（2027年）2月27日（土）にホテルグランヴィア大阪で予定しております。より多くのOB・OGの皆様にご参加いただき、バスケットボール部のさらなる発展を支えていただければ幸いです。



参加者（敬称略）：
部長・顧問：佐浦隆一（リハビリテーション学教授）、学 24 期：岡田茂樹、学 28 期：松井昭彦、学 33 期：室谷益代、学 34 期：東川雅彦、学 37 期：安田稔人、学 38 期：瀧谷公隆・太田博文、学 40 期：田邊和子、学 42 期：瀧川直秀、学 44 期：劉 長勸・山口和男、学 45 期：北野 直・榮樂周子・菅 敬治（平成 8 年金沢医科大学卒）、学 47 期：藤田能久・藤田今日子、学 50 期：片嶋 隆・三木義仁、学 52 期：藤田修一・宮崎信一郎、学 56 期：伊丹康夫、学 61 期：高矢雅大、学 65 期：柏木秀基、学 70 期：沼 研三朗
学生：前田紘一・松原志穂（3 回生）、若林百恵（4 回生）



仁泉ひろば

jinsen-park

令和7年度 大阪医科薬科大学医学部 柔道部追い出しコンパ開催報告

文責／本田浩太郎（学59期）

令和8年2月28日（土）に、令和7年度大阪医科薬科大学医学部柔道部追い出しコンパが高槻阪急スクエア内「桃谷樓」で開催されました。仁泉柔友会（柔道部）OB11名、師範1名、学生24名が参加し、柔道部主将の杉原哲也君の司会のもと会は進行しました。今年度より柔友会会長に就任された田口忠宏先生（学28期）と柔道部部長の南 敏明教授（学36期）よりご挨拶をいただいた後、恒例の辻 芳實師範による乾杯のご発声で盛大に開会しました。会は鏡割りで封切られた紹興酒を堪能しながら和気あいあいと進み、OBと部員の交流を一層深めました。

令和7年度の卒業生は十河尚基君、北村 薫さんの2人でした。2人からは挨拶と今後の抱負を語っていただき、花束と記念品が贈呈されました。2人とも国家試験

に合格され、それぞれのマッチング先病院で医師としての道を歩まれます。柔道部で学んだ礼節と縁を大切に、今後のご活躍を期待しています。

追い出しコンパは、部員減少による休部時期とCovid-19感染症の影響で、9年ぶりの開催となりましたが、恒例となっている伝統の自己紹介を部員全員が行い、さらに最年長の田口会長、南教授を含む全員のOBも自己紹介を行い、卒業生へエールを送りました。

最後に全員で記念写真を撮影した後、辻 芳實師範の一本締めにて盛会のうちにお開きとなりました。

近年増加した部員をサポートし、伝統ある柔道部をさらに盛り上げるため、今後も仁泉柔友会は支援体制を強化し維持して参ります。



十河尚基君と北村薫さん



参加者（敬称略）

田口忠宏（学28期）、南 敏明（学36期）、植田直樹（学36期）、後藤昌弘（学42期）、土井健司（学42期）、村越 太（学51期）、新保大樹（学51期）、本田浩太郎（学59期）、吉本秀郎（学62期）、長塚俊貴（学66期）、森田琢郎（学70期）

辻 芳實（師範）

杉原哲也（主将・3回生）、長倉愛夏（主務・3回生）、中村美月（会計・3回生）、十河尚基（6回生）、北村 薫（6回生、マネージャー）
長谷川宗一郎（5回生）、白川幹久（5回生）、新田悠祐（5回生）、香川昂佐（4回生）、竹内英人（3回生）、中内琉河（3回生）、近藤 碧（3回生、マネージャー）、吾郷咲斗（2回生）、渡海裕介（2回生、マネージャー）、飯田苺花（2回生、マネージャー）、井伊真優季（1回生）、木田隆介（1回生）、高原佳悟（1回生）、西野慎之介（1回生、マネージャー）、藤長詩穂（1回生）、東香菜子（1回生、マネージャー）、金夕湖（1回生、マネージャー）、野村珠子（1回生、マネージャー）、松原瑞穂（1回生、マネージャー）



南 敏明教授 自己紹介



辻 芳實師範 一本締め



広告募集！

仁泉会ニュースでは、広告の募集もしております。

ご出稿のタイミングや料金などは事務局までお問い合わせください。

TEL ／ 072-682-6166 FAX ／ 072-682-6636

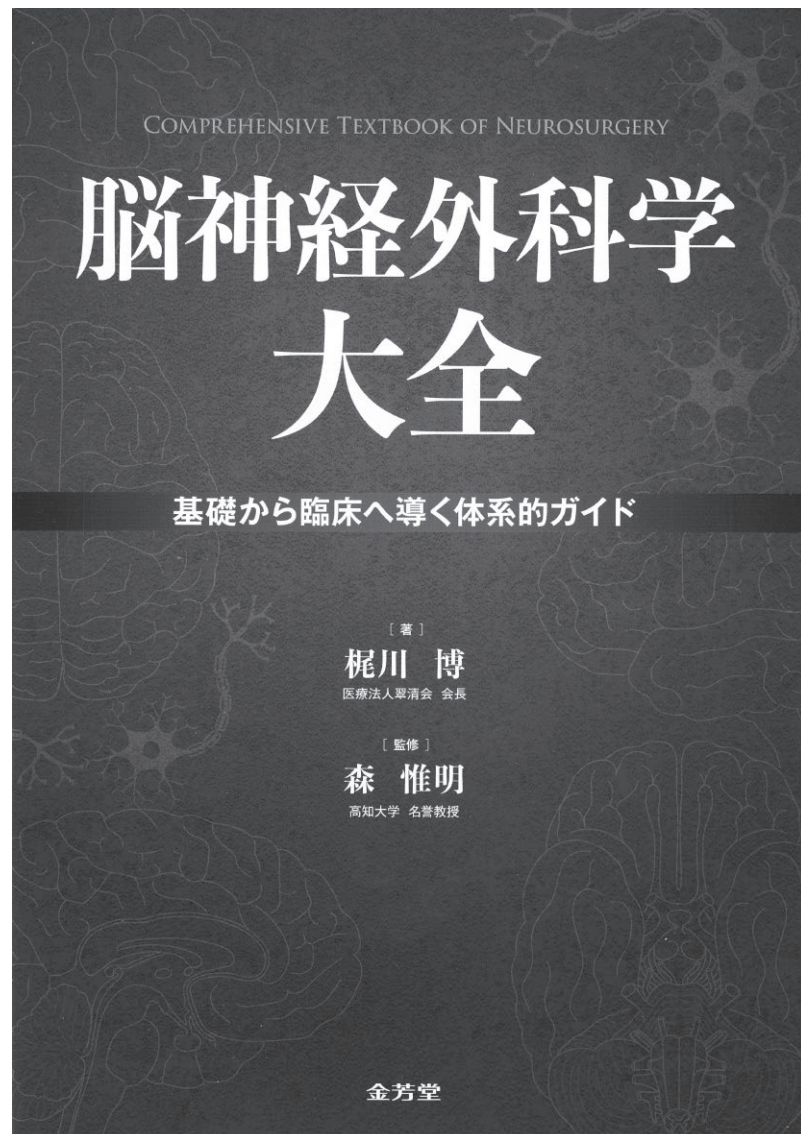
e-mail ／ jimu@jinsenkai.net

会 員 著 書

この度、梶川 博先生(特別会員)が、「脳神経外科学大全 ―基礎から臨床へ導く体系的ガイド―」を発刊されましたのでご紹介させていただきます。

脳神経外科学大全
― 基礎から臨床へ導く体系的ガイド ―

発 刊 (株) 金芳堂
価 格 6,000 円 (税込み)



会 員 著 書

「ちゃんと知りたい偽痛風」

文責 / 井尻慎一郎 (学 31 期)

神戸の学31期の井尻整形外科の井尻慎一郎です。
2026年3月に日本医事新報社の電子コンテンツ「ちゃんと知りたい偽痛風」が発売されたのでお知らせいたします。

判 型 :B5判 頁数：34頁、図20点、表15点
発行日：2026年3月4日
価 格：2,200円 (税込)



内容紹介です。

●痛風に似た関節炎として知られる偽痛風について、臨床現場で生じやすい疑問を整理し、診断と対応のポイントをわかりやすく解説しました。

●偽痛風を“急性単関節炎の鑑別”という実臨床の流れの中で整理し、診断に必要な考え方を解説。高齢者に突如生じる関節炎を前に、痛風や感染性関節炎との違いをどのように考えるか、見逃されやすい病態としての特徴を踏まえて整理しています。

●診断の中心となる関節液検査に焦点を当て、関節穿刺の重要性と偏光顕微鏡による CPP 結晶の確認を軸に、診断に至るプロセスを解説。X 線検査での石灰化陰影の読み方も含め、関節液所見と画像所見を組み合わせた診断のポイントを具体的にまとめています。

●発症機序や再発の特徴、対症療法の考え方にも触れながら、臨床で遭遇する偽痛風の全体像を整理。急性関節炎の診療で重要となる感染性関節炎との鑑別にも重点を置き、診断で迷わないための実践的な内容となっています。

【目次】

1. 偽痛風とは？
2. 偽痛風の診断法と特徴
3. 治療
4. 痛風・偽痛風・感染性関節炎の鑑別診断
5. 痛風のミニ知識と筆者の苦い経験
6. 最後に

会 員 著 書

書籍発刊のご報告

文責 / 国立成育医療研究センター総合診療科
永井 章（学38期）

このたび、当院総合診療部の窪田統括部長とともに編集・作成いたしました『診断エラーを防ぐ～小児科の落とし穴』についてご報告申し上げます。

正しい診断は、どのようなケースにおいても患者さんの苦痛の軽減・消失につながる治療に不可欠なものであり、その重要性は小児科医として経験を重ねるほど強く実感してまいりました。正しい診断ができるようになるにつれ、その“アンチテーゼ”ともいえる診断エラー、そしてそれをいかに回避するかというテーマに自然と関心が向かうようになってきました。

退官が近づく中で、これまでの経験や学びを一冊の本としてまとめたいという思いが芽生えた折、オール成育医療研究センターとして本書を発刊することができました。

本書は、小児科診療における診断エラーの回避を主眼に一貫して記載した書籍であり、同様の視点でまとめられた類書は乏しいかと思います。内容としては、総論で問診・診療姿勢・身体診察・検査を取り上げ、各論ではさまざまな徴候について、診断エラーが生じやすいポイントを踏まえた基本的な診療姿勢、鑑別診断、家族への説明、症例提示などを盛り込んでいます。小児科診療において、こうした視点から体系的にまとめた書籍はユニークであり、日常診療にもお役に立てる部分が多いものと考えております。診断に必要なことは、経験と知識を積み重ね、常に研鑽を続けることであり、その豊かなバックグラウンドをもとに、目の前の患者さんの病状を俯瞰し、動的かつ広いフレームで診療する姿勢を意識した構成といたしました。実際の症例やピットフォールも示されており、さらに、随所に示されるコラムもとても興味深く読んでいただけたと思っています。本書を通じて、診療姿勢の重要性、そして「人と医学に誠実に向き合う」という思いを改めて深くすることができ、本書が受け継がれる小児科診療のパール集になることができればと心から願っている状況でもあります。著者の多くは、日頃より信頼を寄せている成育医療研究センターの各専門診療科の先生方であり、さらに、

多くはかつて私とレジデントと指導医の立場で関わらせていただいた各専門分野で活躍されている当院レジデント卒業生の先生方でもあり、本書籍の執筆者のメンバーとしてみんなで揃って名を連ねることができたことは、私にとって望外の喜びでした。

本書の構想から発刊に至るまでには、小児科医として大学医局から成育医療研究センター総合診療科に至るまで多くを学ばせていただいたこと、そしてその基礎を大学医局時代に培わせていただいたことが大きな支えとなりました。心より感謝申し上げます。今回、大変僭越ではございますが、本書発刊のご報告と、これまでご指導いただいた仁泉会の先生方への感謝を込めて、ここにご報告申し上げます。

「診断エラーを防ぐ ～小児科の落とし穴～」

出版社 中山書店／296 頁



〈amazon リンク〉



まんが 第79回

それ以前の問題

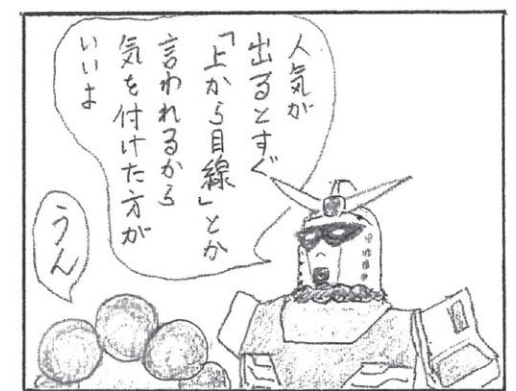


Over The Counter



機動戦士ポン太ム（学31期）

心得



開業しました！

外村 大輔先生（学 55 期）

名称 とのむらクリニック
住所 〒582-0009
大阪府柏原市大正3-2-31 2F
電話 072-971-5515
FAX 072-971-5517
診療科目 内科・循環器内科
診療時間 月・火・木～土曜 08:45～12:00
月・火・木・金曜 16:30～19:00
※午前受付 11:30 まで
午後受付 18:30 まで
休診日 水曜日、土曜日午後、日曜日、祝日
ホームページ <https://tonomura-cl.com/>
仁泉会の先生方に一言
地域のかかりつけ医として、尽力して
参ります。よろしくお願いします。

開業しました！

吉田 修平先生（学 55 期）

名称 よしだ内科・呼吸器内科クリニック
住所 〒567-0887
大阪府茨木市西中条町3番41号
YM17ビル 102号室
電話 072-645-4159
FAX 072-645-4160
診療科目 一般内科、呼吸器内科
診療時間 月曜～土曜 9:00～12:30
月・火・木・金曜 16:00～19:00
※午前の最終受付：直接来院される
方は初診・再診 12:00
※午後の最終受付：直接来院される
方は初診・再診 18:45
休診日 水曜午後、土曜午後、日曜、祝日
ホームページ <https://yoshida-kokyuki.jp/>

開業しました！

江崎 雄也先生（学 59 期）

名称 えさき眼科小児科
住所 〒511-0863
三重県桑名市新西方二丁目284番地
電話 0594-41-3120
FAX 0594-41-2687
診療科目 眼科、小児科、アレルギー科
診療時間 眼 科：月曜～土曜 9:00-12:00
月曜～木曜 13:30-16:30
小児科：月曜～日曜 7:30-12:00
（日・祝日は 9:30 まで）
月曜～木曜 13:30-16:30
休診日 眼科：日・祝日は休診
ホームページ <https://esaki-eye-kids.com>
仁泉会の先生方に一言
たいへんお世話になります。
よろしくお願いします。



本部だより

理事会開催報告

令和 8 年度第 1 回理事会

日 時：令和 8 年 5 月 1 6 日（土）
午後 3 時から
場 所：母校 新講義実習棟 4 階
特別応接会議室
出席者：1 7 名

【報告事項】

1. 物故者 7 名
2. 入学式
令和 8 年 4 月 4 日（土）
3. 医学部歌制定について
4. その他

【協議事項】

1. 議事録署名者の件 理事長及び出席監事
可決承認
2. 令和 8 年度免除会員の件 可決承認
3. 令和 7 年度収支決算（案）の件 可決承認
監査報告
4. 令和 7 年度事業報告（案）の件 可決承認
5. 令和 8 年度収支予算（案）の件 可決承認
6. 令和 8 年度総会運営の件 可決承認
7. 1 0 0 周年記念事業の件 継続審議
8. 第 3 4 回全国私立医科大学同窓会連絡会
「西部会」運営の件
令和 9 年 9 月 2 5 日（土）可決承認
9. 次回理事会の件
令和 8 年 5 月 3 1 日（日）
午後 1 2 時 3 0 分から 可決承認

令和 8 年度第 2 回理事会

日 時：令和 8 年 5 月 3 1 日（日）
午後 1 2 時 3 0 分から
場 所：ホテルグランヴィア大阪 2 0 階
クリスタルルーム
出席者：2 4 名

【報告事項】

1. 物故者 6 名
2. 評議員会総会出席者
3. 令和 8 年度総会出席報告

【協議事項】

1. 議事録署名者の件 理事長及び出席監事
可決承認
2. 令和 8 年度総会運営の件 可決承認
3. 次回理事会の件
令和 8 年 7 月 1 8 日（土）
午後 3 時から母校開催 可決承認



会 員 訃 報

次の会員が亡くなられました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医20期 村田夏樹先生

令和8年4月13日、誤嚥性肺炎のためご逝去（98歳）。
昭和26年卒。

母校卒業後、医学博士号を取得され、高知赤十字病院、
神戸中央市民病院でのご勤務を経て、昭和48年4月に
芦屋市にてご開業され、地域医療の発展に尽力されま
した。

ご遺族 長男 直樹様

学部1期 小延知暉先生

令和8年1月13日、急性大動脈解離のためご逝去(99歳)。
昭和27年卒。

母校卒業後、奈良県五條市にて南和会大川橋診療所
をご開業され、地域医療を支えておられました。
ご遺族 子 俊文様

学部8期 有坂 卓先生

平成30年1月29日、肺炎のためご逝去（87歳）。
昭和34年卒。

母校卒業後、南あわじ市にて有坂眼科医院をご開業さ
れ、地域医療に貢献されました。
ご遺族 妻 せつ子様

学部8期 江村正信先生

令和7年8月25日、パーキンソン病のためご逝去（90歳）。
昭和34年卒。

母校卒業後、大阪市立大学内科学教室に入局。その
後、桃山市民病院でのご勤務を経て、昭和43年富田
林市にて江村医院をご開業され、地域医療の発展に尽
力されました。
ご遺族 妻 悦子様

学部10期 竹内邦夫先生

令和8年1月3日、老衰のためご逝去（91歳）。

昭和36年卒。

母校卒業後、長岡京市にて竹内内科医院をご開業さ
れ、地域医療を支えておられました。

学部10期 渡辺吉将先生

令和7年11月15、心不全のためご逝去（91歳）。

昭和36年卒。

大阪薬科大学卒業後、大阪医科大学に入学されました。
母校卒業後、勤務医を経て、大阪市東成区等で耳鼻
咽喉科医院を2カ所ご開院され、地域医療に貢献され
ました。

ご遺族 妻 佳余子様

学部17期 増本鐵郎先生

令和8年2月14日脳出血のためご逝去（82歳）。

昭和43年卒。

母校卒業後、大阪医科大学第二外科教室に入局。昭
和51年に大学再編により、一般消化器外科教室に入
局。その後、昭和55年に堺市にてご開業され、地域
医療の発展に尽力されました。

ご遺族 妻 豊子様

学部19期 清水達夫先生

令和8年1月30日、悪性神経膠腫のためご逝去（83歳）。
昭和45年卒。

母校卒業後、母校の精神科学教室に入局、昭和54
年に講師をお務めになられました。その後、昭和58年
財団法人川越病院に副院長としてご着任されました。
平成8年より同病院院長、理事長に就任され、地域医
療を支えておられました。

ご遺族 長男 英毅様

学部20期 平野優子先生

令和8年4月19日、ご逝去（79歳）。

昭和46年卒。

母校卒業後、大阪大学医学部耳鼻咽喉科教室に入局
されました。その後、豊中市民病院でのご勤務を経て、
伊丹市にて杉安病院をご開業され、地域医療に貢献さ
れました。

ご遺族 夫 敏行様

学部 22 期 窪田隆裕先生

令和8年1月21日、ご逝去（76歳）。

昭和48年卒。

母校卒業後、同年9月、大阪医科大学助手（生理学）
に就任されました。昭和52年9月からは米国エール大
学医学部生理学教室へ留学され、昭和54年11月に医
学博士号を取得されました。昭和55年1月に大阪医科
大学講師となられ、その後、北野病院、中町赤十字
病院の内科勤務を経て再び大学へ戻られ、昭和62年
1月には大阪医科大学講師（生理学）に就任されました。
平成8年1月、大阪医科大学生理学第二講座教授に就
任され、長年にわたり教育・研究にご尽力されました。
平成26年4月には大阪医科大学名誉教授の称号を授
与されました。

ご遺族 妻 徳美様

学部23期 新宅敬夫先生

令和8年3月10日、急性心不全にてご逝去（78歳）。

昭和49年卒。

母校卒業後、平成元年より新宅医院にてご勤務されて
おられました。平成15年同病院院長に就任され、地域
医療の発展に尽力されました。
ご遺族 実弟 治夫様

学部25期 多田秀樹先生

令和7年12月23日、下咽頭癌のためご逝去（76歳）。

昭和51年卒。

母校卒業後、大阪医科大学第二内科教室に入局。そ
の後、医学博士号を取得されました。平成4年には同
教室の講師をお務めになられました。平成9年からは京
都博愛会病院の副院長に就任され、地域医療を支えて
おられました。

ご遺族 妻 万砂子様

新入生・保護者の皆様への仁泉会紹介と 入会のお願いをいたしました。

令和8年度新入生オリエンテーションに中野隆史
常任理事が出席し、新入生に対して仁泉会の概
要や活動内容を紹介するとともに、入会を呼びか
けました。

また、PA会（保護者会）には上野豊理事長が

出席し、保護者の皆様に仁泉会の沿革および活
動内容について説明を行いました。

仁泉会では、学生および保護者の皆様に本会
への理解を深めていただけるよう、今後もさまざ
まな機会を通じて入会促進に取り組んでまいります。



支部長交代のお知らせ

＜石川県支部＞

前支部長 喜多 徹先生（学24期）
↓
新支部長 木村寛伸先生（学34期）

＜岡山県支部＞

前支部長 小出尚志先生（学28期）
↓
新支部長 渡辺英臣先生（学31期）

お詫びと訂正

仁泉会ニュース第57巻第2号35頁「堺支部新支部長」におきまして、氏名の表記に誤りがございました。

正しくは、下記のとおりです。

＜堺支部＞

新支部長 （正）吉岡卓治先生（学30期）

ご迷惑をおかけいたしましたことを、紙面をお借りして深くお詫び申し上げます。

大阪医科大学学歌が医学部歌となりました！

このたび、大阪医科大学学歌は、大阪医科薬科大学医学部歌として位置づけられることとなりました。

多くの卒業生に親しまれてきた学歌が、医学部の歌として今後も受け継がれていくこととなりますので、会員の皆様にご報告申し上げます。

大阪医科薬科大学の学歌は大学のホームページでお聴きすることが出来ます。
「大阪医科薬科大学 学歌」で検索。

編集部より

会費納入のお願い

年会費
令和7年度 10,000円
令和6年度 10,000円
令和5年度 10,000円
納入のご協力をよろしくお願い致します。
事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。
ご投稿お待ちしております。

●57巻4号（令和8年9月1日発行）
締切 令和8年7月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7
E-mail：jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

編集後記

北海道の友人の話では、北海道でぶりが取れるようになったが北海道の人はぶりの料理の仕方を知らない、また鰻も取れるようになったが北海道の鰻は水温が低いせいか脂がのっついてうなぎのようだと、言います。野菜や果物はハウス栽培で旬の時期に関係なく供給されて季節感が失われています。一方で産地が変わってきています。地球の温暖化は日常生活にも影響を及ぼし

ています。気候にも大きな変化が起こっています。暖冬に酷暑、雨が降ると熱帯地方のスコールのような激しい降り方です。今、世界中を熱狂の渦に巻き込んでいるサッカーですが空調の設備のあるスタジアムは一部のみで選手や観客の暑さ対策が叫ばれています。今年の夏は猛暑を超えて酷暑になると予想されています。皆様、暑さに負けず夏を乗り切りましょう。（HM）



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: 072-761-8434

継承医師募集

新林内科医院（しんばやしないかいいん）

地域に根ざした診療を継承いただける医師を募集いたします。

所在地：〒472-0017 愛知県知立市新林町新林 40-6

交通：JR 東海道線 東刈谷駅より徒歩 20 分／

東海道新幹線 三河安城駅まで車で数分

開業：1995 年 5 月

標榜科目：一般内科・小児科・皮膚科・リハビリテーション科

業務内容：一般外来、発熱外来、訪問診療、往診、地域検診、予防接種 等

連絡先：TEL 0566-82-2616 FAX 0566-83-6621

お問い合わせ：神谷 鋼彦（学 14 期）

大阪医科薬科大学病院ニュース

Osaka Medical and Pharmaceutical University Hospital News

「大阪医科薬科大学病院ニュース」は、紙媒体での配布を終了しウェブ掲載へ移行させていただきました。

最新号ならびにバックナンバーは、当院ホームページにてご覧いただけます。右記QRコードを読み取り、ぜひご確認ください。

<https://hospital.ompu.ac.jp/about/letters>



大阪医科薬科大学病院
Osaka Medical and Pharmaceutical University Hospital

ご支援のお願い

至誠仁術を備える人材の育成をめざして

数十年先の未来医療へ

大阪医科大学創立100周年記念事業

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト



Since 1927



1960年
病院1号館完成

2016年
中央手術棟竣工

2022年
病院新本館
A棟完成

2018年
関西BNCT 共同
医療センター竣工



2025年7月22日病院本館グランドオープン



2031年大学病院
全建替え事業完了予定

募 金 目 的 大学病院新本館の建築、学生支援体制の充実、奨学金制度の拡充

募 金 目 標 10億円

募 集 期 間 ～2027年3月

募 集 対 象 趣旨にご賛同いただける個人・法人の皆様

募 金 単 位 個人：1口1万円、法人・団体：1口10万円
1口未満のご寄付につきましても有難くお受けいたします。

特 典 大阪医科薬科大学健康科学クリニック人間ドック（基本コース1名1回分）無料受診券を進呈します。
個人10万円以上、法人・団体50万円以上

申 込 方 法 学校法人大阪医科薬科大学 寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部 迄ご連絡ください。 申し込み先▶



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆さまからのご寄付を積み立てて資金運用を行い、さらに増やしていく仕組みです。基金の拡充は、長期にわたる「教育・研究活動」や「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募 集 要 項

募 金 単 位 個人：1口1万円 法人：1口10万円

申 込 方 法 学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。

【お問い合わせ先】募金推進本部 ☎ 072-684-7243

税制上の優遇措置

学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

2025年4月
START

大阪医科薬科大学 × 高槻市ふるさと納税

大阪府高槻市には、ふるさと納税制度により高槻市に所在する大学を支援する制度があり、この制度を通じて、大阪医科薬科大学を指定したご支援をいただくことが可能です。



高槻市ふるさと納税がバメントクラウドファンディングサイトよりお申し込みください。



※ご寄付に伴う高槻市からの返礼品はございません。
※高槻市在住の方でもご寄付いただくことが可能です。



学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
Tel: 072-684-7243 Mail: kikin@ompu.ac.jp Web: <https://www.ompu.ac.jp/donation/index.html>